

Ⅱ 植 生 概 観

神奈川県ほぼ中央部に位置する厚木市は、地形的には相模原台地に代表される低地地帯と丹沢、中津山地の丘陵、山地地帯にまたがっている。また県下でも屈指の相模川に接し、地域的に多様である。また、標高的にも相模川の約10mから、丹沢大山の1,251 mまで1,200 m以上の高度差がある。これらの自然環境に対応して、厚木市の植生も多彩である。市の約40%を占める厚木市の西側山地では、ブナ林をはじめ、イヌブナ、クマシデ、ヤシヤブシなどの夏緑広葉樹林がみられる。またリュウブ、アブラチャン、ニシキウツギ、スズタケなどの低木林が山頂域を中心にひろがっている。山頂域の地肌の露出した斜面ではフジアザミ、ヤマホタルブクロなどの多年生草本植物が散生している。緑色凝灰岩を母岩とする丹沢山塊の山地斜面は、地形的にも比較的急峻である。とくに崩壊性の強い急傾斜地ではヤシヤブシの優占して夏緑広葉樹林となっている。また、母岩の露出した南向きの急傾斜地ではツクバネウツギ、ニシキウツギ、マルバウツギ、ヤマボウシ、ヤマツツジなどによる多くの夏緑生の低木林がみられる。その他の山地斜面ではヒノキやスギの植林が多く、標高1,000 m付近まで人工林が形成されている。また標高800 m以下のとくに南向きの斜面では、一部ウラジロガンやアラカシの常緑生のカン類による常緑広葉樹林がみられる。尾根部では局地的に針葉樹のモミが生育している。山地の溪谷状谷部では、フサザクラの低木林が谷にそって発達している。

厚木市の西側に広がる丘陵地や台地、低地では、農業的土地利用が広くおこなわれており、自然植生はほとんどみられない。台地や低地では、森林植生そのものも限られている。しかし、七沢盆地を中心にとりまく丘陵地では、クヌギ、コナラの雑木林やスギの人工林が多く、低地の水田や畑地とともに豊かな田園景観を保っている。また、火山灰台地の河成段丘面では、シラカシ林や雑木林、人工林など森林植生が、狭い帯状ながら残存している。しかし、これら丘陵地や台地上では、大規模な植生の破壊を伴う採石場やゴルフ場、あるいは住宅団地等の建設が進められている。平坦な地形の少ない台地上や低地では、畑地や水田が多いが、そこでも厚木市の急速な都市化にともない、住宅地や工場、商業地へと急速に転換しつつある。

厚木市の西端域には、相模、中津川の各河川があり、河川敷には、オギ、ツルヨシ、スキナなどの大形イネ科草本群落やメドハギ、ヨモギなどの多年生草本群落、アキノエノコログサ、オオクサキビ、ヤナギタデ、ミゾソバなどの1年生草本植物群落など多様な河辺植生がモザイク状に発達している。